別紙３

厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書

血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者に対する外科治療の標準化に関する研究

研究分担者　　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター　上村　悠

研究要旨
国立国際医療研究センターに通院する HIV 感染血友病患者における全身麻酔手術例について調査をした。

共同研究者
なし

A. 研究目的
HIV感染血友病患者は、血友病、HIV感染症、慢性C型肝炎などの複数の病態が重なる。血友病、HIV感染症治療の進歩により、患者の生命予後は延び、血友病患者、HIV感染者の高齢化が問題となっている。HIV感染血友病患者においても同様のことが起きており、加齢に伴い非エイズ癌の合併やその他の疾患による外科手術の必要度が増加する可能性がある。直接作用型抗ウイルス薬の登場により本邦のHIV感染血友病患者のC型肝炎ウイルスはほぼ全例で排除されているが、排除前に肝硬変へと進展している例が多く、依然肝細胞癌発症のリスクがある。
当センターでのHIV/HCV重複感染者における外科診療の実態について調査を行った。

B. 研究方法
国立国際医療研究センターに通院するHIV/HCV重複感染薬害エイズ患者を対象とした。2019年年1月1日から2023年12月31日までに、当センターで行った全身麻酔手術例について、診療録を用いて、後ろ向きに情報収集した。

（倫理面への配慮）
後ろ向きの非介入な解析であり参加者に不利益はないと考えた。プライバシーに配慮をしてデータを取り扱った。

C. 研究結果
期間中に合計5例の全身麻酔手術を認めた。血友病Aが4例、血友病Bだった。40代が4例、60代が1例だった。
1例のみCD4数が200/μLだったが、それ以外ではCD4数は300/μLであり、HIVウイルス量は5例とも検出未満だった。術前の血小板数は、1例で4万/μL台、と少ない患者が含まれていた。肝硬変例は3例認めた。
手術対象となった疾患と術式はそれぞれ、不安定狭心症・CABG、胆石性急性胆嚢炎・腹腔鏡下胆のう摘出術、肝細胞癌・腹腔鏡下肝部分切除術、精巣癌・精巣摘出術、脾梗塞・脾摘出術だった。

D. 考察
本調査では 5 例/5 年間の全身麻酔手術例を認めた。当センターでは約 75 例の患者が通院するが、約 1 例/年のペースで全身麻酔手術が行われていることが判明した。CD4 数が低値の症例、血小板数が低値の症例、肝硬変例などを認めた。いずれの症例も手術は問題なく終了し、出血量は通常と比較し多いことはなかった。HIV 感染症や血友病に関連した術中、術後の合併症を認めなかった。

E. 結論
当センターのHIV感染血友病において、一定数の全身麻酔手術例があることがわかった。特に手術で問題は生じていなかった。

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表
１．論文発表
なし
２．学会発表

第 38 回 日本エイズ学会学術集会・総会 ランチョンセミナー1 時代とともに変わりゆくHIV感染合併血友病患者の問題点とその対策

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

１．特許取得

なし

２．実用新案登録

なし

３．その他

なし